

令和7年2月27日

学校評価(自己評価)公表シート

社会福祉法人アタラシイカタチ

幼保連携型認定こども園 やまとこども園 mimi

1. 本園の教育・保育目標

教育・保育目標

【生き生きとした子どもを目指して】

- ・ 丈夫で体力のある子ども
- ・ 元気よく友達と遊べる子ども
- ・ 自分のことは自分でできる子ども
- ・ 自分の主張をはっきりとすることができ、みんなで力を合わせることを大切にする子ども
- ・ 自然に目を向けられる子ども
- ・ 感動し、驚き、疑問を持ち、考え、表現できる子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目を設定し、それらに沿って自己評価を実施し、職員が主体性を持って客観的に自園の教育内容・保育内容をチェックし、重点項目について点検と改善に取り組む。

3. 評価項目の達成と取り組み状況

評価項目	取り組み状況
こども園の教育・保育理念や方針に沿って教育・保育課程を編成している。	職員で研修し教育・保育過程の見直しを行った。園の教育・保育理念に沿った全体的な計画になるように作成している。
指導計画は、教育・保育要領、教育・保育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成されている。	指導計画作成については、様々な研修を受けるとともに、保育教諭間で保育実践の振り返りを行い、改善している。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	保育教諭は、園児一人一人の日々の観察や記録をもとに振り返りをしながら園児の理解を深め、指導の改善に生かしている。
毎月、各クラスの成果と課題を報告し、確認している。	毎月の月案、週日案で反省評価を行い、主幹、副園長、園長と共有しながら職員会議やミーティングで職員に報告している。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の園児の理解を深め、その園児のよさや可能性を評価している。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自ら選んで遊ぶことができ、それを発展させて友達と協力して遊んだり、工夫したりできる環境づくりを探りながら進めている。

規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	園生活の自然な流れの中で機会を捉えて指導し、園児自身が必要性に気付き、自分でしようとする気持ちをもてるようにしている。
-------------------------	---

教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	毎月の職員会議の中で、研修の報告会を行い、事例の研究や取り組みなどの情報交換をしている。
園だよりや各種研修会を通して、子ども園の情報を発信していく。	日々の保育の様子をコドモンで配信、園だより等で保育のねらいや内容を伝える。ドキュメンテーションを作成して実際の遊びや園児の学びを伝える。地域の会議でこども園の様子を報告する等、より積極的に園の取組みについて、情報発信に取り組んでいる。
保護者のニーズの把握のために、要望や苦情に適切に対応をはかる。	年間2回の個人懇談、年1回の保護者アンケートの実施、保育参観、年3回の学校評議員会を通じて、保護者の考えを聞きながら園の考えも伝え、改善に努めている。 苦情に関しては担当を決めて対処している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について教職員が研修などで趣旨や意味を理解し、適切に自己点検や自己評価に取り組む姿が見られた。今後も自らの教育や保育を日々振り返りながら、反省や改善を繰り返し、充実した教育・保育を実施していきたい。また、各種の課題や目標についても概ね達成ができつつある。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全教育と安全管理	地震などの自然災害への対応と計画・準備、また不審者等への対応など、危機管理マニュアルの徹底と日頃の訓練を通して職員の意識の向上を図る。 ヒアリハット研修を通して安全点検を徹底し、安全教育に努める。
自己点検・自己評価	人権擁護のためのセルフチェックリストを使って一人一人を大切に保育の自己点検をし保育の見直しを心がけた。 今後も各職員においてさらに課題を設定し、自己研鑽に取り組むようにする。
指導計画の編成	研修等で知識やスキルの向上を図り、保育の実践をもとに振り返りを行い、子どもの実態に即した指導計画の立案を目指すしていく。 また、園の特色について話し合い、教育ビジョンを確認し、よりよい園づくりを行うようにする。